

施策	施策展開	素案	進捗管理指標名	委員名	意見	回答
1 地球温暖化対策の推進	1-1 温室効果ガス排出削減の取組	●	COOL CHOICEを実践している市民の割合	A	どのように計測されるのか教えてほしい。	R2年度市民意識調査結果において、実践していると回答した市民の割合です。
		●	CO ₂ 削減運動等取組事業所数	A	どのように計測されるのか教えてほしい。	市が協力依頼するCO ₂ 削減キャンペーン等のCO ₂ 削減運動に参加された事業所数の合計です。
				B	取組事業所の把握方法が、素案の内容から読み取れない。(登録制度など)できれば、そのあたりの記載がある方がよいと思う。	施策展開「温室効果ガス排出の取組」の【事業者の取組】(P13)の記述をわかりやすく修正します。
	—	環境マネジメントシステム「エコアクション21」や「ISO14001」などの取得事業所数	C		環境マネジメントシステムについては、施策展開「環境に配慮した産業の育成」(P49)の中で普及促進することとしております。	
	1-2 再生可能エネルギーなどの地域資源の活用	—	市内の再生可能エネルギー(太陽光、バイオマス、水力など)による総発電量(kWh)の市内総使用電力量(kWh)に占める割合	D	この割合は電力使用に伴うCO ₂ 発生量の再生可能エネルギー発電による削減割合の目安になると考えられる。最終目標割合はCO ₂ 削減割合46%とエネルギー基本計画での再生可能エネルギー発電量の構成割合を考慮して設定する。	数値の把握が困難なため、入手可能なFIT認定状況による「再生可能エネルギー発電出力」を進捗管理指標としたいと考えます。
		—	市内の太陽光による総発電量(kWh)の市内総使用電力量(kWh)に占める割合	D	この割合は電力使用に伴うCO ₂ 発生量の太陽光発電による削減割合の目安になると考えられる。最終目標割合は2030年のCO ₂ 削減46%(2013年比)とエネルギー基本計画の電源構成割合での太陽光発電量の割合を考慮して設定する。	数値の把握が困難なため、入手可能なFIT認定状況による「再生可能エネルギー発電出力」を進捗管理指標としたいと考えます。
		—	市内の学校に設置された太陽光発電システム導入校	E	対応する計画部分に再エネ導入がなかったため。	現在、公共施設への導入を検討しており、現時点において目標値を設定することは困難ですが、今後検討してまいりたいと考えます。
		—	再生可能エネルギー設備・施設への助成件数	F	気候変動対策として必要ではないか。	本市に助成制度はありませんが、FIT制度メリットなどの啓発を進めることにより導入促進を進めてまいりたいと考えており、指標としては、「再生可能エネルギー発電出力」としたいと考えます。
		—	太陽光発電普及率	A	再エネ導入に関する何らかの指標が必要ではないか。	数値の把握が困難なため、入手可能なFIT認定状況による「再生可能エネルギー発電出力」を進捗管理指標としたいと考えます。
		新	再生可能エネルギー発電出力	-		委員意見をもとに新規提案
1-3 移動・物流の低炭素化の促進		●	市内の次世代自動車(EV等)の導入台数(累計)	G	単年度の導入台数となっている。累計が欲しい。市内の何%EV又は次世代車となっているかに意味がある。	単年の評価ではなく、導入台数累計の進捗管理指標としたいと考えます。
○	公用車における次世代自動車の導入台数	G	単年度の導入台数となっている。累計が欲しい。公用車が何%EV又は次世代車となっているかに意味がある。例えば公用車が全てEVに切り替わったら、この指標は単年度0台になってしまう。	公用車の導入台数も含めて、市内の導入台数で評価することとします。		
—	-	A	事業者の取組がカバーできていない。直接的かつ計測可能な指標はないか。	CO ₂ 削減運動にエコドライブやスマートムーブも含まれています。		
2 循環型社会の形成	2-1 廃棄物の適正処理の徹底	—	埋立最終処分量(t)	D	廃棄物の適正処理での究極の目標は、この量が0となることと考えられる。	分野別計画である防府市ごみ処理基本計画の中で評価することとしています。
		●	1人1日あたり家庭ごみ排出量(資源回収量を除く。)	G	家庭ごみ排出量を1人1日あたりにしているが、事業系ごみ排出量とそろえた表現にしてほしい。又は併記する。(理由)家庭ごみ排出量がいかに多いか実感できる。ゴミ処理負荷を考えるとときも総量が判っていることが大切と考える。	分野別計画である防府市ごみ処理基本計画の数値目標であり、原案のどおりとしたいと考えます。

防府市環境基本計画(第3次)の進捗管理指標に関する意見と回答

●:前回素案記載、修正案にも記載 ○:前回素案記載、修正案から削除 新:修正案に新たに記載

施策	施策展開	素案	進捗管理指標名	委員名	意見	回答
2 循環型 社会の 形成	2-1 廃棄物の適正処理 の徹底	●	1人1日あたり家庭ごみ排出量(資源回収量を除く。)	G	基本目標の数値目標である1人1日あたりごみ排出量が基準年度938gとなっているが、1人1日あたり家庭ごみ排出量(資源回収量を除く)の基準年度600gとの違いは何か。	基本目標の数値目標(938g)は、1人1日あたり家庭系ごみ排出量(657g)と1人1日あたり事業系ごみ排出量(281g)の合計であり、600gは、1人1日あたり家庭系ごみ排出量から資源回収量を除いたものです。
		●	事業系ごみ排出量	-	意見なし	-
	2-2 3Rの推進	●	市によるリサイクル率	B	市によるリサイクル率は、計画自体は市の計画であるので不要では。あえて、「市による」と記載される意図は何か。	分野別計画である防府市ごみ処理基本計画の表記に合わせて削除します。
				A	3R推進は、市によるリサイクル率で総合的にカバーさせようとしていると思われるが、市民・事業者の3R推進に波及する指標となっているか分かりにくいので、説明を加えてほしい。	3Rの推進は、ごみの減量化を評価できる1人1日あたり家庭ごみ排出量、事業系ごみ排出量の2つの指標と合わせ3つの指標で総合的に評価することとしています。また、施策展開「3Rの推進」の「現状と課題」(P22)の記述をわかりやすく修正します。
		-	プラスチックごみや食品ロスの削減を積極的に心がけている市民の割合	F	今までの対策の中でもプラスチックごみや食品ロスの削減は、今後、特に大きな課題になると思われるため。	市民意識度調査の調査項目に加え、把握することとします。
		-	プラスチックごみのうち有効利用される割合	D	有効利用されないプラスチックごみは海洋プラスチック汚染の要因になると考えられる。	数値の把握ができず、指標とすることは困難です。
		-	食品ロスの内有効利用される割合	D	この割合はフードバンクポストやフードドライブなどの利用度合いの目安になると考えられる	数値の把握ができず、指標とすることは困難です。
-	-	H	3R推進とあるが、P22文章中ほどには3Rの説明文があるが、大項目としては説明がなく何のことか分からない。説明を前に持ってくる等した方が分かりやすい。	施策展開「3Rの推進」の「現状と課題」(P22)の記述をわかりやすく修正します。		
3 自然環境 の保全	3-1 緑と水の保全	○	花壇コンクール応募数	A	市民と行政の取組の指標と考えられる。事業者の「水と緑の保全」がカバーされていないのではないかと。	「花壇コンクール応募数」を削除し、「記念植樹本数」、「森林ボランティアの参加人数」で評価したいと考えます。
		●	記念植樹本数	A	市民と行政の取組の指標と考えられる。事業者の「水と緑の保全」がカバーされていないのではないかと。	ご指摘のとおり、事業者の取組をカバーするものではないが、その他に候補となる指標がなく原案のままとしたいと考えます。
		●	森林ボランティアの参加人数	A	市民と行政の取組の指標と考えられる。事業者の「水と緑の保全」がカバーされていないのではないかと。	森林ボランティアは、事業者の参加も多く事業者の取組でもあります。
				A	森林ボランティア参加人数は市民の取組を評価する指標と思うが、森林ボランティアというキーワードは行政の取組に記述されており、そちらの指標とすることを意図しているのであれば、支援額などに変更または追加すべきではないかと。	市民、事業者、行政の3者の取組であること明確にするため、施策展開「緑と水の保全」の【市民の取組】、【事業者の取組】に森林ボランティアの記述を加え修正し、指標は原案のまま参加人数としたいと考えます。
		-	緑のカーテンコンテスト参加数(市民・学校・事業所)	C		「温室効果ガス排出の取組」の指標「COOL CHOICE」「CO ₂ 削減運動」に含めて考えています。
	3-2 人と自然のふれあいの確保	●	自然教室等の開催回数・参加人数(年間)	A	行政の取組に偏っている。市民の取組も評価するため、開催回数だけでなく参加人数も加えてはどうか。なお、事業者の自然ふれあい確保はカバーされていない。	開催回数と参加人数の併記に修正します。ご指摘のとおり、事業者の取組をカバーするものではないが、その他に候補となる指標がなく原案のままとしたいと考えます。
3-3 農林水産業の基盤整備と担い手の確保	●	農業、漁業新規就業者数(累計)	A	農林漁業新規就業者数は行政と事業者の取組を評価している。市民の「農林水産基盤整備」はカバーされていないが、重要性は低いという判断と理解している。ただ、その他にも評価すべき重要な取組があるように見える。就業者数が特に重要であることを説明いただいた方が良いと思う。	農業、漁業の担い手不足が続く中、市として農業、漁業の担い手の確保に取り組んでおり、着実に新規就業者の確保ができているかを確認するための指標となります。	

防府市環境基本計画(第3次)の進捗管理指標に関する意見と回答

●:前回素案記載、修正案にも記載 ○:前回素案記載、修正案から削除 新:修正案に新たに記載

施策	施策展開	素案	進捗管理指標名	委員名	意見	回答
3 自然環境の保全	3-3 農林水産業の基盤整備と担い手の確保	-	道の駅、潮形市場防府の利用者数	D	この指標は本施設の魅力向上のための指針となると考えられる。	農林水産業の基盤整備と担い手の育成としては、「農林漁業新規就業者数(累計)」を代表指標としたいと考えます。
		-	食育や農林水産業体験に取り組む教育施設数	F	特に将来を担う子どもたちへの啓発が量れるような指標があるといいのではないかと。	食育啓発イベントや鮎の放流などの種苗放流イベントを実施しており、「自然教室等の開催回数・参加人数(年間)」や「5環境に配慮し、行動できる人づくりの推進」の進捗管理指標「環境に関する講座の開催数・参加人数」として評価することとします。
4 生活環境の保全	4-1 きれいな空気の確保	●	光化学オキシダントの環境基準超過日数	B	日射量や風速などの気象条件の影響を受けるものであり、県内・全国でも環境基準の達成率が低い項目である。工場などからのSOxなどの排出量が生成要因の1つとされているが、令和13年度の目標である0日/年の達成は極めて困難であると思う。	ご指摘のとおり目標達成は困難と考えますが、環境基準は、人の健康を保護し、生活環境を保全するうえで望ましい基準とされているため、すべて達成することを最終目標としています。
				A	きれいな空気については、「光化学オキシダントの環境基準超過日数」で一部代表しているが、取組レベルで取り上げられている悪臭やばい煙は防府市では重要な問題ではないのか。	光化学オキシダント以外の二酸化硫黄等の大気に関する環境基準は、現状で満足している状況のため、基準を満足していない光化学オキシダントを代表指標としております。
	4-2 きれいな水の確保	●	水質に係る環境基準の達成率(海域 化学的酸素要求量(COD))	-	意見なし	-
		●	公共下水道整備率	-	意見なし	-
		●	合併処理浄化槽設置基数	-	意見なし	-
		-	-	A	きれいな水のうち、市民や事業者の取組に挙げられている地下水水質は、防府では重要ではないのか。	汚染が確認された区域を除く地下水質の概況調査において、環境基準を満足する状況のため、大気と同様に、環境基準を満足していない海域のCODを代表指標としております。
	4-3 静穏の保持	●	騒音に係る環境基準の達成率(一般地域)	-	意見なし	-
●		騒音に係る環境基準の達成率(道路に面する地域、面的評価(昼間・夜間ともに基準値以下の戸数の割合))	-	意見なし	-	
	項目全般の意見その他	-	-	I	なぜ基準年度が令和元年なのか。	山口県調査の大気、水質の環境基準達成状況は、山口県環境白書で公表され、令和元年度の情報が最新となりますので、生活環境の保全の進捗管理指標は、令和元年度を基準年度としております。
5 く環 り境 の 推 配 進 慮 し 、 行 動 で き る 人	5-1 環境教育・環境学習の浸透	●	環境に関する講座の開催数・参加人数	-	意見なし	-
		-	防府市クリーンセンターの見学の回数と参加者数	D	この指標は本センターが環境教育・環境学習の機会を提供することの重要性を示すと考えられる。これらの数値がかなり大きな値で持続していくことが望ましいと考えられる。	「環境に関する講座の開催数・参加人数」を代表指標としたいと考えます。
		-	防府市クリーンセンターや上下水道施設を利用した学校教育・地域教育の実施を数値化する(例:受け入れ人数)	G	市民の理解を高めるには環境教育が最も大切なため。	
		新	環境保全活動を行っている団体数	C		市民一斉清掃や佐波川一斉清掃に参加した団体数を事業者の取組の進捗管理指標「環境保全活動を行っている団体数」として評価することとしたいと考えます。
		-	-	A	主体レベルでは事業者の取組が評価されていない。	
	○	環境保全分野における「ほうふ幸せます人材バンク」指導者バンク登録者数	-	意見なし	「環境保全活動を行っている団体数」を指標とし、削除します。	

施策	施策展開	素案	進捗管理指標名	委員名	意見	回答
6 ほうふの 特性を 活かした 持続可能 な地域づ くりの推 進	6-1 自主的な取組と協働の輪の拡大	-	NPO・ボランティア活動への参加者数	D	この指標は自主的な取組への積極性の度合いを示すと考えられる。	参加人数を把握することは困難なため、アンケートで把握することとし、防府市総合計画策定のアンケートの項目である「NPO・ボランティア活動へ積極的に参加している市民の割合」を進捗管理指標としたいと考えます。
		-	防府市協働事業提案制度への応募数	D	この指標は、市民との協働の輪の推進への積極性の度合いを示すと考えられる。	「NPO・ボランティア活動へ積極的に参加している市民の割合」を代表指標とします。
		-	-	F	自主的な取組と協働の輪の拡大では、地域による環境活動への支援を直接的に示せるような指標は看板の配布枚数の他にもないのだろうか。	「NPO・ボランティア活動へ積極的に参加している市民の割合」を代表指標としたいと考えます。
		新	NPO・ボランティア活動へ積極的に参加している市民の割合	-		委員意見をもとに新規提案(市民意識度調査で確認)
			○	不法投棄等防止啓発看板の配布数	D	P21不法投棄の防止にも対応する。不法投棄を重要視して、この指標はP25の循環型社会の形成の進捗管理指標に移動するのが良いと考えられる。
6-2 環境に配慮した産業の育成	項目全般の意見その他	●	積極的に地元産の食材を購入している市民の割合	-	意見なし	-
		-	防府ブランド「幸せます」の活用を図るような指標	F	環境に配慮した産業の育成では、「ほうふの特性を活かす」という意味から、あってもいいのではないかと。	「積極的に地元産の食材を購入している市民の割合」を代表指標としたいと考えます。
	-	-	A	中項目レベルでは自主的取組・協働、環境配慮産業の育成ともに指標が一つずつ設定されているが、主体レベル、取組レベルで見ると多くがカバーされていないように見える。指標の代表性、妥当性について説明を加えていただく必要があると思う。	主体レベル、取組レベルですべてをカバーすることは困難ですが、今回の見直しの中で、指標の代表性、妥当性を考慮したものとしています。	
全体を通しての意見	-	-	-	A	大項目・中項目・主体・取組のどのレベルを指標でカバーするか、意識する必要がある。指標の原案は、中項目をカバーすることを意識しているように見えるが、一部にカバーされていない中項目がある。また取組は多岐にわたっており、指標原案との独立性が高い(指標原案でカバーされているとは言い難い)ものも見受けられる。	各主体すべての取組について指標を設定することは困難ですが、中項目(施策の展開)レベルで1つ以上の代表指標を設定することとし、指標の代表性、妥当性を考慮して、各委員のご意見を基に修正しています。
	-	-	-	A	指標でカバーされていない取組については、指標でカバーされている取組との内容の類似性や重要性に基づいて、カバーしない理由が説明できた方が良いと思う。独立性が高く、また重要性も高い場合には、指標を追加することも考えられる。	
	-	-	-	I	定量目標値の設定の根拠は何か。	目標の設定方法は、各指標ごとに、実績に基づき算定したものや国や県の指標を参考としたものなど様々です。